

グロッセ世津子先生のこと

Ms. Grosse Setsuko is mourned

毛利ユカ

いばらき園芸療法研究会 (IHT) 代表

浅野先生からグロッセ先生の追悼文を、とお声をかけていただいた。私より深いつながりをお持ちの方が大勢いらっしゃるのに、何とも出過ぎた事とは思いつながら私なりに書かせていただこうと思う。

2020年11月22日 日本園芸療法学会2021年大会プレ大会がオンラインで開かれた。その朝、参加者に学会理事である先生のお名前が無い事に以前から(何か変だ)と感じてきたことが確信に変わり、失礼とは思いつながらも早朝にお電話を差し上げた。お出にはならず、少したってLINEが来た。

「ごめん。入院してました。後日詳しく。ユカさん、今日がんばってね」

今から思えば、すでにご自身では返信できない状態でおられたと思う。

先生はHTネットワークという会を主宰されていた。主なくとも主のつなげた仲間の結束は固く、会は今も元気だ。この会のメンバーで勉強会や見学会、リフレッシュと称して、ずいぶん旅行をしたものだ。

「ボディールが元気な内に会いに行きましょうよ」

「それならユカさん企画してよ」

ボディール・アナヤ先生はグロッセ先生と私の園芸療法の恩師であるAHTAの高等園芸療法士。ニューヨーク郊外の老人ホームで暮らしている、という手紙が発端だった。

話はすぐにまとまって会のKさんとMさんと先生と私の4人で2017年9月ニューヨークに飛んだ。

1週間の珍道中の楽しかったこと。ボディールの老人ホームで園芸療法教室を開いて入居者の皆さんを喜ばせたり、シティのハイラインという高架都市公園の成り立ちと景観に興味を持って歩きに行ったり、ハドソン川のクルージングを楽しんだり。パンを買いに行くような普通のことさえも楽しかった。

先生と私はいつも同室で、気まづくなることは1度もなかった。2人の夜は、スチュワード時代の話、リュックさんとのなれそめなど修学旅行の夜のように楽しかった。



ボディール・アナヤ先生との再会

園芸療法の核心というべき話は朝に多かった。ご自分の考え・知識・情報を惜しみなく注いでくださった。私1人だけの贅沢な授業をもったいないと思うと同時に、その情熱さえも吸収したくて身を乗り出して聞いていた。



ニューヨーク旅行の一コマ

この旅行でご一緒したKさんは植物のことを聞いて分からないことが無い方で、先生の片腕だった。Kさんは先生と同じ病で、まるで先導のように2020年10月に逝去された。

その K さんのお見舞いに伺った時のこと。先生はいつもと変わらず明るく話しかけ、励ましておられた。ご自分の病気のことを私たちに何も言わず、それどころか心配も見せなかった。

後からの話で、9 月の定期健診で癌の再発を知らされた事。心配させたくない、とご家族にさえ長く話さずにいた事。抗がん剤治療は受けないと決心されていた事を知った。

強くて人一倍ナイーブな先生が、同じ病に倒れ行く親友にどんな気持ちで声をかけていらしたのか？あの日の事を思い出すと今でも胸が詰まる。

プレ大会の翌 23 日、息子の龍太さんから 11 月に入って急に体調が悪くなった事。腹水を抜く為に入院した事。先生の心に沿うようなドクターを探したら、すでに 2 人は知り合いで、往診してくれる主治医になってくださった事を伺った。

25 日 ニューヨーク旅行で一緒した M さんと岩手に向かった。先生はリビングで横になっておられた。声は少し弱かったけれどしっかりされていた。いらした主治医の説明に「挑戦する。そうやって生きてきたから」と、他にもご自分の考えを口にされた。（ああ、最後まで先生だ）と私は頷きながら、なんの感情か分からない涙をこぼした。

あの日もそうだ。

2020 年 2 月 6 日。全国を 7 ブロックに分けた未来会議をしたい、園芸療法を盛り上げたいという石神大会長の熱のこもった話にワクワクして喜んでいる先生の姿があった。

園芸療法の素晴らしさを分かち合いたい、夢に向かう人の背中を押したい、迷い悩む人の手を引いてあげたい、そのために私は頑張る、という先生だった。

プレ大会の大盛況と大成功をご覧になっていたら、どんなに喜ばれたことだろう。

ご自宅での看病はご家族と「疲れている人が看病すると、される側も疲れる」そんな心配りが出来る友人・仲間が入れ代わり立ち代わりされていた。

そのお 1 人が「先生ね、『こんなスペシャルが待っているとはね』とか『私、生まれてきた意味が分かったのよ』っておっしゃって。」と教えてくれた。

嬉しかった。

感性を体現するのに努力を惜しまず、魂のつながりを大切にしてきた先生。今生での役割をなし遂げた「集大成」を感じての言葉だと私は思うからだ。

お葬式は穏やかで、なごやかで、晴れ晴れとした心あたたまる式だったと人づてに聞いた。

ふとした時に、遠いような近いような所から先生の声が聞こえる時がある。

先生、ありがとうございました。

園芸療法を日本に広めるパイオニアとしての奮闘、本当に、本当にお疲れ様でした。

先生の蒔いた種は、全国で花を咲かせています。

これからもっと良くなる園芸療法の世界をご覧にいきますよ。お楽しみに！

これらの言葉は 10 年も 20 年も先に言うはずだった。それだけが腑に落ちないでいる。